

千葉中央での思い出

小山 菜月

今日、この「千葉中央」を卒部するのは、何だか信じられません。平日は学校に行っ
てから中央の練習、土日は一日中バレーボールをするというのが日課だったので、卒部
してからは、とてもさみしくなるなと思います。

私が年少のとき、お姉ちゃんがバレーを始めました。一緒に送りむかえに行けば、た
くさん遊べると思い、なるべくたくさん連れて行ってもらえるようにしました。

年中のときには、すみれも来たので、もっと楽しく遊べました。

二年生の十一月、やっと入部しました。監督にしつこく言われたのもあったけど、私
はすみれと一緒にバレーをしたいと思ったから入部することを決めました。

入部してから初めに学んだことは、みんなと合わせるということです。前のように勝手
にやりたいことだけやるのではなく、みんなと同じように、一生懸命練習をこなさなけ
れば、という気持ちが出てきました。

三年生の終わりごろ、二回だけAチームの遠征に行きました。そのときもついてい
けるよう、頑張りました。

四年生になりバックとして試合に出るようになり、練習が厳しくて辛いこともありま
したが、頼りのある六年生が全国大会や関東大会に連れて行ってくれたので、私はとて
も幸せでした。四年生として、いつもみんなを明るくできるように、元気にやろうと思
いました。

五年生のときは、監督に

「お前ら、五年がまとめないからだ。」

と怒られ、自分は出来ないのにたくさんのことをまかせられ、不安でとてもいやでした。
そんなことだけで「やめたい」と思ってしまいました。でもそれは「期待されている証
拠だ。」とお母さんに励まされ、自分では「自分でやりたいと思ったからやったのに、
そんなのは自分勝手に無責任すぎる」と思いました。

六年生になり、キャプテンになりました。キャプテンという責任がプレッシャーに変
わり、始めは自分のプレーに集中できませんでした。しかも、注意ばかりされました。
キャプテンは、チームのお手本になり、指示を出し、自分からすすんで行動しなければ
いけなくて、とても大変な仕事です。また、明るいチームにするために、常に声を出す
ように意識しました。

ただ自分のやりたいように指示を出すのはダメなキャプテンです。私は、みんなにす
ぐきつく言ってしまいました。でも、周りのみんなのおかげで何とか今までやっていけ
ました。これからも誰かに頼るのではなく、支えていってあげてください。支えあっ
ていくことができるチームが本当に強いチームだと私は思っています。仲間と共に辛いこ

とをのりこえたぶんだけ、いいことや楽しいことが待っています。これからも頑張ってください。

これまで千葉中央として過ごしてきた九年間、全てが思い出です。始めは、家族と全然お出掛けができなくて、少し不満もありましたが、考えてみたら、毎週色々なところに行っていました。

中央に入部して貴重な体験をたくさんできました。特に、関東大会優勝や高知県で行われた全国大会が特に楽しかったです。

今まで学んだことを生かし、これからもバレーボールを続けたいと思います。

今まで、優しくときには厳しく指導して下さった監督やコーチ。ずっと見守ってくれたお父さん、お母さん。たくさんの方に感謝しています。みんな最高の仲間でした。ありがとうございました。